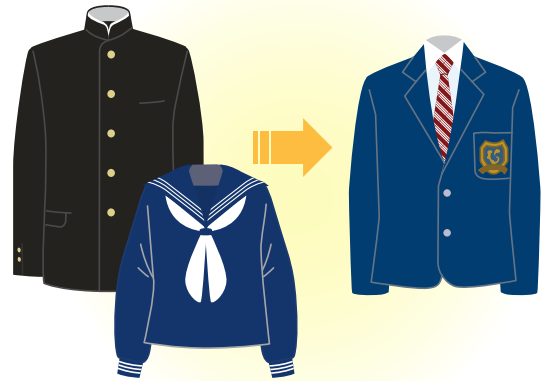


Vol.197 世代別の中学校の制服タイプ

中学校の制服といえば、男子は「詰襟(学ラン)」、女子は「セーラー服」という制服タイプをイメージする人も多いと思いますが、近年、男女共に「ブレザー」タイプの制服にデザイン変更をする中学校が増えています。では、昔と比べて中学校の制服は変化しているのでしょうか。今回は、10～60代の男女1,200人を対象に小学・中学・高校のときの制服の着用の有無と、中学時代に着ていた制服タイプについて調査しました。



調査概要

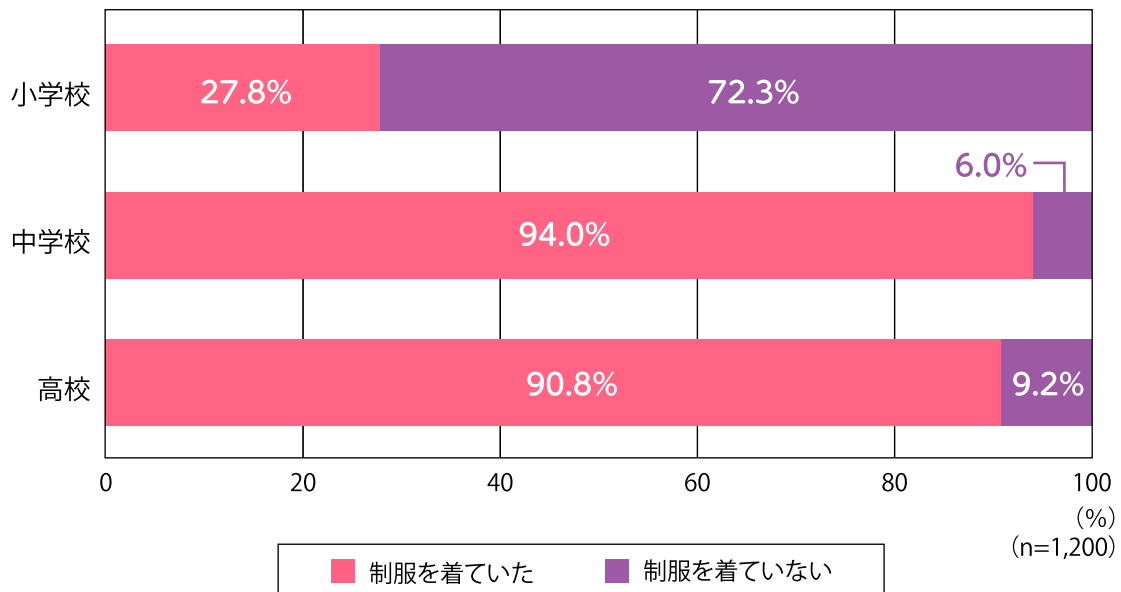
調査対象：全国の10～60代の男女1,200人

調査方法：インターネットリサーチ

実施時期：2022年6月

Q 1. 制服の着用状況

10～60代の男女を対象に学校制服の着用状況は、小学校で「制服を着ていた」(27.8%)という回答は3割に満たない状況でしたが、中学校は「制服を着ていた」(94.0%)、高校は「制服を着ていた」(90.8%)という状況で多くの人が中学校・高校で制服を着用していたと回答しています。その中でも、中学校での制服着用率は最も高く大半の人が制服を着用しています。

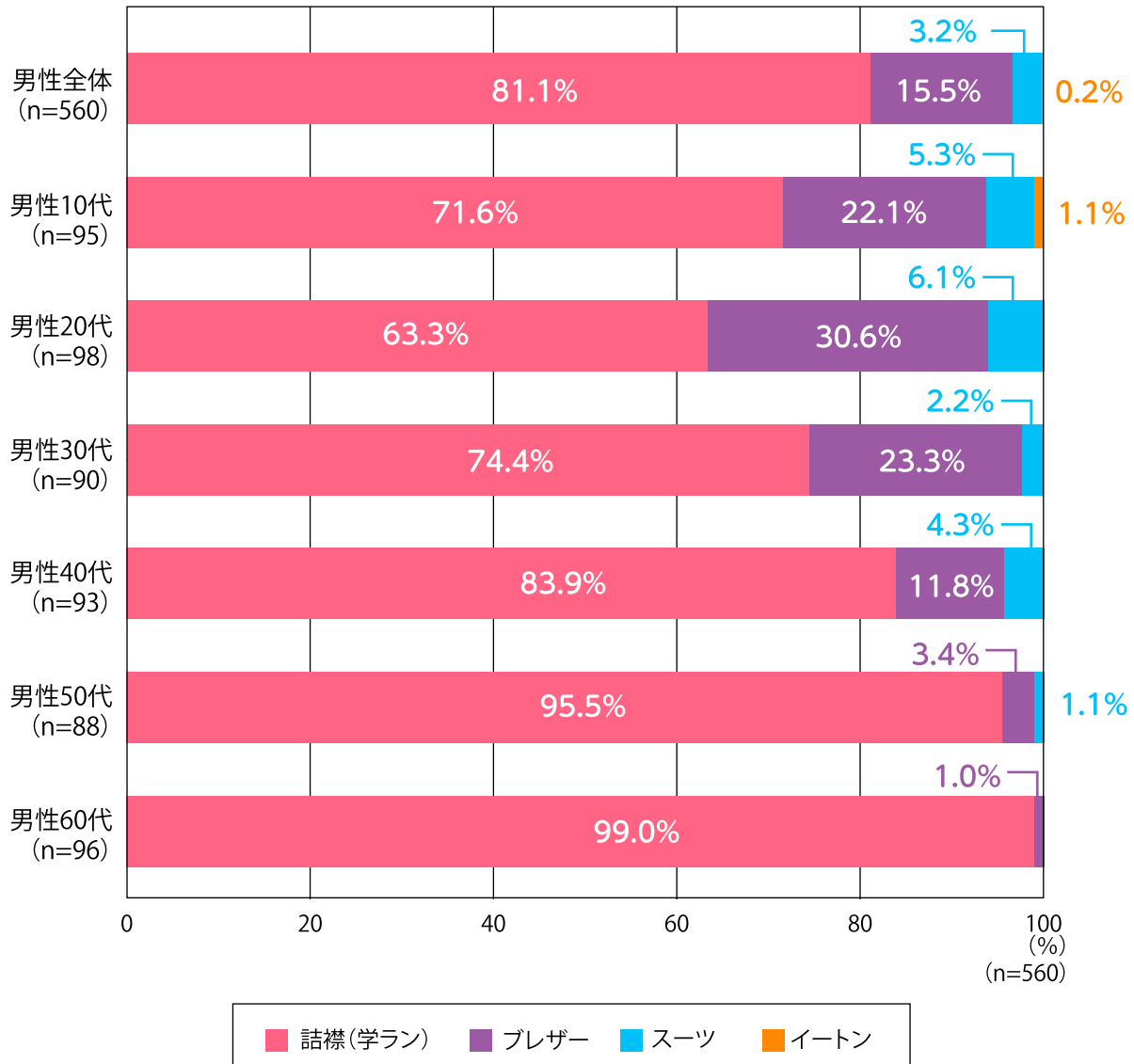


※グラフの数字は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

【図1】 小中高校生のとき、学校制服を着ていましたか。(単数回答)

Q 2. 中学校の制服のタイプ (男子)

10～60代の男性が中学校のときに着ていた制服のタイプは、全体平均では「詰襟(学ラン)」(81.1%)が多いという結果になりました。年代別にみると、男性60代は「詰襟(学ラン)」(99.0%)、男性50代は「詰襟(学ラン)」(95.5%)、男性40代は「詰襟(学ラン)」(83.9%)と、40代以上は詰襟(学ラン)の着用が多い傾向です。詰襟(学ラン)の着用が少ない世代は、男性20代の「詰襟(学ラン)」(63.3%)で「ブレザー」(30.6%)が約3割になり、男性30代以下はブレザーの着用率が2～3割程度に増加しています。



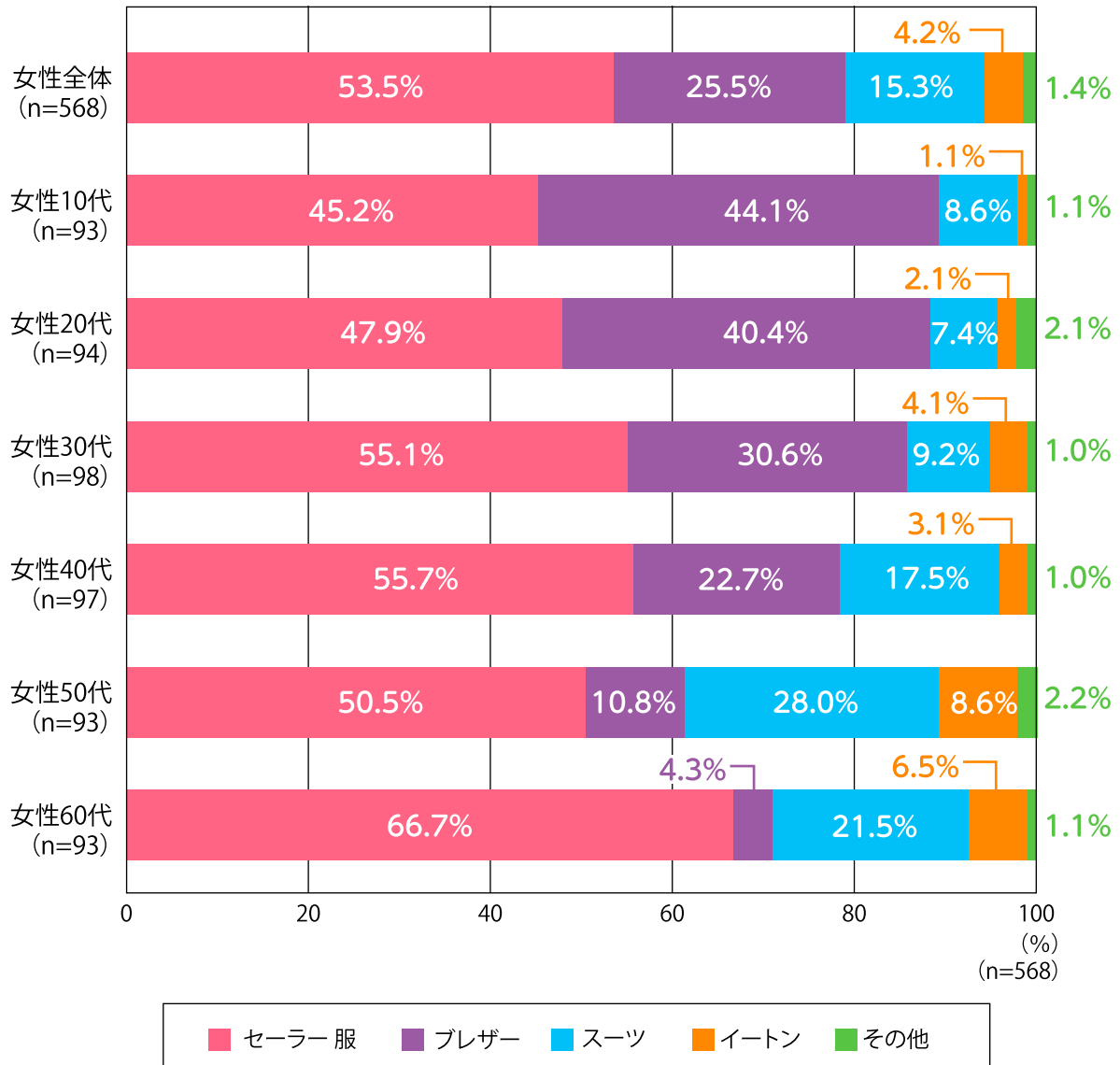
ブレザー…上着とスカート・ズボンの生地が違うタイプ
 スーツ…上着とスカート・ズボンの生地が同じタイプ
 イートン…上着の襟がないタイプ

※グラフの数字は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

【図2】 中学校のときの制服のタイプは、何でしたか。(単数回答)

Q 3. 中学校の制服のタイプ (女子)


10～60代の女性が中学校のときに着ていた制服のタイプは、全体平均では「セーラー服」(53.5%)が5割を超えて最も多く、残り半数近くが「ブレザー」(25.5%)、「スーツ」(15.3%)などのジャケットを着用するタイプでした。年代別にみると、女性60代は「セーラー服」(66.7%)が最も多く、30代以上はセーラー服の着用は5割を超えています。一方、20代以下では、女性10代は「セーラー服」(45.2%)、「ブレザー」(44.1%)という結果で、セーラー服とブレザーの割合が同じくらいになります。



ブレザー…上着とスカート・ズボンの生地が違うタイプ
 スーツ……上着とスカート・ズボンの生地が同じタイプ
 イートン…上着の襟がないタイプ

※グラフの数字は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

【図3】 中学校のときの制服のタイプは、何でしたか。(単数回答)

 まとめ

制服のブレザー化の動きは、性の多様性への配慮という観点から全国的で広がっています。特に、中学校では、性差の出やすい「詰襟(学ラン)」、「セーラー服」の学校が多かったため、性別を問わず着ることのできる「ブレザー」タイプの制服を選択する中学校が増えているようです。

今回、全国の10～60代の男女1,200人を対象に、小中高校での学校制服の着用状況を調査したところ、小学校で「制服を着ていた」という回答は3割に満たない状況でしたが、中学校・高校は「制服を着ていた」という回答は9割を超えていました。10～60代の男性が中学校のときに着ていた制服のタイプは、全体平均では「詰襟(学ラン)」(81.1%)が圧倒的に多く、年代別にみると、詰襟(学ラン)の着用は、男性60代は「詰襟(学ラン)」(99.0%)、男性50代は「詰襟(学ラン)」(95.5%)、男性40代は「詰襟(学ラン)」(83.9%)と、40代以上は詰襟(学ラン)の着用は8～9割以上を占めていますが、男性30代以下は詰襟(学ラン)の着用は6～7割程度に減少し、ブレザーの着用率が2～3割程度に増加しています。また、10～60代の女性が中学校のときに着ていた制服のタイプは、全体平均では「セーラー服」(53.5%)が過半数を超えて最も多い結果となりましたが、「ブレザー」(25.5%)と「スーツ」(15.3%)などのジャケットを着用する制服タイプも4割程度みられました。年代別にみると、女性60代は「セーラー服」(66.7%)が最も多く、30～50代はセーラー服の着用は5割程度になり、20代以下では、女性10代は「セーラー服」(45.2%)、「ブレザー」(44.1%)という結果で、セーラー服とブレザーの割合が同じくらいになります。中学校の制服は、詰襟(学ラン)とセーラー服という制服タイプが主流ですが、若い世代での中学校制服のブレザー化が進んでいると言えます。

学校制服では、ブレザー自体も進化し、家庭の洗濯機で洗えるタイプや、男女でほとんどシルエットが変わらないタイプや、性の多様性への配慮からブレザー化と同時に性別に関係なくスカートとスラックスのどちらも選べるようにする学校もみられます。時代の変化とともに時代に合った制服が求められています。

毎月最終
火曜日
更新

カンコーホームルーム ～学生を読み解くデータ集～

カンコーホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。
ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

<http://kanko-gakuseifuku.co.jp>